

連載

NIA 吉村会長の Coffee Break

国連職員として世界中を旅してきた吉村和就会長が、日本人の知らない海外事情をウィットとユーモアを交えて綴るコラムです。

第3回 北朝鮮に行ってみた

私が北朝鮮を訪問したのは2015年10月でした。私は国連ニューヨーク本部勤務時代から水の専門家として、多くの途上国や紛争国の水問題解決に努力してきましたが、北朝鮮の水問題についての信頼できる情報が当時極端に少なかったのです。そこで現地入りして自分の目と足で「北朝鮮の水問題」を直接確認するのが訪問目的でした。

◎北朝鮮の入国審査

北朝鮮には1週間滞在しました。北朝鮮と日本とは国交がないので羽田空港から中国北京に入り、同日に在中国北朝鮮大使館にてVISA（ビザ）申請。ビザはパスポートに挟む一枚のカードで北朝鮮出国時に回収されます。従ってパスポートには一切記録が残りません。翌日ビザを持って北京空港から北朝鮮唯一の航空会社「高麗航空」に搭乗し、約1時間半で新設された平壤空港（2015年7月1日に開港）に到着しました。空港では入国手続きに加え、厳重な荷物検査が行われました。

例えば本や辞書の持ち込み禁止。DVD、CDの持ち込み禁止。さらにスマホやパソコンの中の画像および動画のチェックがあります。空港では案内人（ガイド）という高級工作人（2人）が待っており、5日間の道中すべての付き添いでした。平壤市内でさえ外国人が1人で歩くことは許されていません。案内された場所以外の撮影は許可が必要でした。

◎北朝鮮の水資源の状況

平壤での年間降雨量は例年1000~1200ミリであり、水インフラがしっかりしていれば国民（約2400万人）が水に困ることはありません。しかし前年2014年の平均降水量は平年の57%であり深刻な干ばつに直面し農作物に重大な被害が出ていました。

宇宙科学者住宅団地



「家具付き住宅はすべて將軍様から無償で頂きました。感謝しています！」と現地の女性から説明された。



しかし台所やトイレも水が出なかったバケツに溜められた水を使用！水道は断水（停水）中

北朝鮮当局は2015年の初めから「コメとトウモロコシを主体とする食糧」を住民1人当たり380g（トウモロコシ9割、コメ1割の割合）配給していましたが、国連が推奨する最低基準（1人1日当たり600g）を大きく下回っていました。つまり国民の半数、約1050万人が栄養失調になっていると国連は警告していたのです。

◎北朝鮮の水道の実態

約220万人居住の平壤市内ではどうでしょうか。平壤市内のビルやホテル、住宅には水道が完備されていますが、水が出ないことが多かった。これは施設の老朽化と電力不足でポンプが稼働できないことによります。案内された市内のビルやレストランのトイレには大きな水タンクが複数常設され、用を足した後、ひしゃくで水を汲み、自分で流すことが要求されました。

2300万人の農村部では、軍事境界線の板門店までの3時間の移動中、農村部には水道施設らしきものは一切なく、河川水や地下水に頼っているものと思われました。山ははげ山（燃料で伐採済み）が多く、田畑の牛は、あばら骨が見える程や背細っており、農民の食料不足が伺えました。最大の問題は電力供給です。地方の場合は良くて1日1~4時間の

限定給電であり、水道どころか日常生活に大きな影響を与えていました。どの位電力が足りないか、NASA の衛星写真を見れば一目で判断できます。暗闇の中に浮かぶ平壤市内の明かりしか見えません。

(吉村和就／習志野市国際交流協会会長、国連テクニカルアドバイザー)

一目で判る 北朝鮮の電力事情



NASA ISSからの衛星写真(2014年2月26日撮影)